

- 皆さん、こんにちは。校長の堀です。
- しばらく静かになっていたキャンパスでしたが、今日在校生が戻り、また今朝新入生も迎えて、活気が戻ってきました。
  - 一年生の皆さんは大きな希望に多少の不安も交じっているかもしれません。
  - 上級生は新入生が困っているような様子を見かけたら、声をかけてあげてください。
  - また、何年生であっても、悩みや心配事があれば担任や相談室を訪ねてください。
  - あと、もし興味があれば校長室も覗いてみてください。
  - 昨年と同様、今年もできるだけ開放します。
  - 部屋の入口に似顔絵が出ている時は気軽にどうぞ。
- さて、日本の初等中等教育のレベルは世界的に高い、と時々ニュースになっています。
  - しかし大学となると、残念ながら、あまり芳しくないことは皆さんもご存じかもしれません。
  - 高校までの比較では生徒の知識やスキルが主な評価対象ですが、大学の評価では教える側の教育力や研究力が主な対象になります。
  - 欧米の大学では社会で起こる課題から解くべき問題を掘り出す問題提起力や、課題から仮説を立てる仮説構築力など、考える力が重要視されています。
  - これに対し、日本の大学では知識詰め込み型の授業に偏りがちだったり、研究が教育から乖離していたりするため、大学評価で不利なのかもしれません。
  - その点、高専教育においては教育と研究は一体であり、授業でも実践的な課題と実験を扱い、「考える力」を伸ばす機会が多くあります。
  - 皆さんは折角本校の学生なのですから、その機会を活かしましょう。
  - 五年間の積み重ねは大きな差を生み出します。
  - まずはこの一年が皆さんにとって実りある年になるように願っています。
- 以上です。